

目的：樹脂加工布の耐洗たく性は消費科学的見地から無視できない問題である。これについて一部はすでに報告したが、樹脂加工布を洗淨する際関与する要因、すなわち各種界面活性剤、ビルダー、ドライクリーニング用溶剤、漂白剤の他洗淨時の機械力などをそれぞれ単独に作用させてその影響をみる必要性を感じた。さらに、よごれの構成成分が作用した場合によごれの付着自体が洗淨時樹脂の脱離に影響を及ぼす可能性も無視できないと考えられた。そこで、これらの要因を個々に取り上げて樹脂の脱離状態を詳細に検討した。

方法：LAS、セツゲン、ノニオン系界面活性剤の他、ビルダーとしてトリポリリン酸ナトリウム、ケイ酸ナトリウム、硫酸ナトリウム、炭酸ナトリウム、CMCなど、漂白剤としてハイター、ワイドハイター、有機溶剤としてパークロルエチレン、ベンジン、エタノールを用いた。さらに食品よごれの構成成分の代表的なものとして塩化ナトリウム、サク酸を使用した。上記処理剤に浸漬した場合の影響、機械作用を加えた影響、浸漬後さらにLASによる洗淨を加えた場合の影響などを観察した。樹脂の脱離状態は、いずれも既報の紫外線吸収スペクトル法による樹脂の付着量の変化により判定した。

結果：樹脂により若干異なるが、全体的傾向として次のような結果が得られた。界面活性剤のみではノニオン系がもっとも影響が少なくセツゲンが大きい。ビルダー中では、硫酸ナトリウムの影響が他のものより大きい傾向がみられた。有機溶剤の影響はあまりみられなかった。全体として塩系系漂白剤による脱離率が最高である。また、食塩、サク酸などの、食品よごれの構成成分の付着による影響もみられないという結果が得られた。